

「こんにちは」から始まる国際交流



かにえ国際交流友の会

Kanie International Friendship Association

会報 No.13 (March 2006)



KIFAクリスマス会にて (2005年12月4日)

Contents

- | | |
|---|-----|
| ☆ ホームステイ交流 / 会長 藤田美保、☆ KIFAへの期待 / 町長 横江淳一 | 2 |
| ☆ 2005年度主要活動一覧、☆ 「ポルトガル語教室」紹介 / 中西久子 | 3 |
| ☆ 日本語教室「日本語しゃべろう会」(火曜日クラス) / 川崎直子 | 4 |
| ☆ 日本語教室「日本語しゃべろう会」(土曜日クラス) / 八神里美 | 5 |
| ☆ 「プエルト・リコの思い出」 / 黒川邦子 | 6 |
| ☆ 「カナダ自由旅行」 / 田村民子 | 7 |
| ☆ 「オーハイム夫妻の蟹江再訪」 / 櫛田君代 | 8 |
| ☆ 「クリスマス会」報告 / 黒川邦子、太田幸子 | 9 |
| ☆ 「ミャンマー小学校への支援」報告 / 磯部正弘 | 10 |
| ☆ 「国際交流関連講演会」報告 / 青木猛、☆ 新役員紹介 | 11 |
| ☆ 世界の国旗、2006年度行事予定、企業・賛助会員一覧 | 裏表紙 |

「ホームステイ交流の再開期待」

会長 藤田 美保



サッカーワールドカップの年になるとハンブルグでのホームステイを思い起こします。1998年フランス大会の真っ最中に、私達KIFA ホームステイ団はドイツのハンブルグにいました。その時点で日本はずで

に予選リーグ敗退していましたが、ドイツは決勝トーナメントへと勝ち上がり、大変な盛り上がりでした。滞在中のある1日リュエベックを訪れ、今号の記事にも出ているエルケ・オーハイムさんの案内でこの美しい世界遺産の町を見て廻ったのもこの時でした。

私はイギリスに長期滞在の経験がありますが、それと比べてこのホームステイは1週間余りでした。しかし、普通の人々の(日常)生活に触れる密度はより濃かった気がします。やはり現地の人との交流はそこにホームステイして実のあるものになると実感しました。

ハンブルグ側での責任者であるユルゲン・ツーターさんが元気であれば(前号参照)、相互訪問が再開されて、今年の夏辺りにはこちらからドイツへホームステイに出かけることが可能となったかもしれないと残念です。何とかまた実現させることができ、多くの会員の方に実り多きホームステイを体験していただきたいものです。文末ですが、ユルゲン・ツーターさんの回復をお祈りしています。

「かにえ国際交流友の会への期待」

町長 横江 淳一



KIFAの皆様におかれましては、日ごろから地域の国際交流にご尽力いただき、心から敬意を表するとともに厚くお礼申し上げます。

さて、去年は愛知県において「愛・地球博」が開催さ

れ、当町もフレンドシップ事業として「モンゴルデー」を応援するとともに「蟹江町の日」を実施して参りました。世界の人々に蟹江町の特産品や歴史・文化、伝統芸能を知ってもらい、また参加した住民の皆さんにはグローバルな視点に立って交流を考え、今後の海外との交流の一層の弾みとなればと思います。KIFAについては近隣の町村に国際交流団体がないこともあり、町域を越えて近隣町村の外国人の皆さんを受け入れるなど、友の会の活動に対して、蟹江町内外を問わず多くの皆さんが感謝していると思っています。そのほかにも地域に根ざしたさまざまな交流事業や国際理解講座などの幅広い活動を実践しておられるKIFAの皆様方には大変感謝しているところでございます。

最後になりましたが、今後も地域レベルの国際交流活動の中核としてますます発展されますようご祈念申し上げ、また会員の皆さまのご健勝を心からお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2005—2006年度 役員一覧

会 長	藤田 美保	副会長	谷口 信一	書 記	青木 猛 ¹	会 計	鈴木 ツタエ
			谷中 ひさ子		中西 久子 ²		黒川 邦子

監 事	伊藤 恵津子	理 事	八神 里美 ³	川崎 直子 ⁴	櫻井 初美	深山 加代子
	小林 文子		太田 幸子	大下 和男	富岡 恒子	山口 令布子

1) 英会話教室担当 2) ポルトガル語教室担当 3) 日本語教室(土)担当 4) 日本語教室(火)担当

かにえ国際交流友の会 2005年度実施の主要行事

開催日	行事内容
2005年	
4月 17日 (日)	総会・パーティー (公民館分館)
6月 12日 (日)	親善ボーリング大会 (カニエボウル)
8月 13日 (土)	町民夏祭り出店 (創郷公園)
14日 (日)	同上
10月 8日 (土)	町民秋祭り出店 (町役場前)
9日 (日)	同上
12月 4日 (日)	クリスマスパーティー (源才コミュニティーセンター)
2006年	
2月 19日 (日)	国際交流関連講演会&料理 (インドの話と料理の試食)
3月 21日 ~4月4日	JLFF (日本ルイジアナ友好基金) のルイジアナホームステイに高校生1名派遣

ポルトガル語教室の紹介

中西久子

KIFAの各行事に多くのブラジルの方が参加されています。日本語が堪能な方もいますが、そうでない方もみえます。これらの日本語を話さない人たちと、たとえわずかなポルトガル語でも話し掛けられれば・・・と、教室設立に参加することにしました。基礎のある英語と違い、全く分かりません。しかしそれだけに会話の役割練習はたのしいものです。

毎回忘れてしまっているわたしたちに根気良く教えてくださるのは渡辺エルジネチ先生です。みなさん！是非一度あそびにきてください。原則として毎月第4土曜日、午後2時～です。変更する時もありますので事前にお問い合わせください。(ネチ先生が4ページに日本語で感想文を書かれていますのでご覧ください)。

KIFAポルトガル語教室へのお誘い

★★ 講師：渡邊ネチ先生、2回/月(土曜日)、中央公民館 ★★

★ 先生のクラス(第4土曜日)：午後2:00～4:00、自主クラス(月1回)：午後2:00～3:00 ★

会費は月¥3,000程度(受講者数により多少変動)です。当クラスでは現在、受講者を募集中です。詳細、申し込みは担当：中西久子、TEL/0567-95-4749まで。

KIFA英会話教室へのお誘い

★★ 講師：ジョン山本先生、第2、4日曜(月2回)、中央公民館 ★★

★ クラスA：午前9:00～10:30、クラスB：午前10:30～12:00 ★

会費は月¥2,000程度(受講者数により多少変動)です。当クラスでは現在、受講者を募集中です。詳細、申し込みは担当：青木猛、TEL/0567-31-1216まで。

「日本語教室」の感想

河村優香

去年、3月31日にフィリピンから日本に来ました。そして蟹江中学に入りました。さいしょは、私はとてもさびしくてひとりぼっちでした。「こんにちは、ありがとうございます



ちは、ありがとうございます、ごめんなさい」などしか言えませんでした。そして児童館の日本語教室に入りました。さいしょ、私はここでも全員のことを知るのは大変だと思いました。でも、毎週通ううちに、みんな、とてもフレンドリーだと思いました。ここで勉強すること

で、コミュニケーションができるようになりました。そして、話すこと、書くこと、読むことが学べました。高校のために日本語をもっと勉強したいです。

追記：

優香さんは昨年三月に、日本語ゼロの状態で来日して、蟹江中学の一年生に入りました。翌月、お母さんと中学からの要請で、火曜日クラスで日本語支援をすることになりました。中学校の応接室で初めて面談したときの、優香さんの消え入るような話し声と不安そうで泣きそうな表情を忘れることができません。でも、前向きで好奇心旺盛な性格で、学校では卓球部に入り、少しずつ日本の生活にも日本語にも慣れてきました。彼女のことがきっかけとなり、昨年夏に「KIFA子ども日本語の会」が設立されました。家庭、学校、KIFAと協働しながら、外国籍の児童・生徒の支援活動を行っていければと思っています。(火曜日クラス担当：川崎直子)



「料理教室」と「書初め」の感想文

渡辺エルジネチ(ネチ)

わたしはこどもたちといっしょに、りょうりきょうしつにさんかしました。こどもたちははじめてクッキーづくりをしました。たのしかった。わたしは、はじめてぎょうざをつくりました。むずかしかったけれど、じょうずにできました。あじもおいしかった。わたしは、ブラジルりょうりのフルーツサラダをつくりました。みんながおいしいといってくれたので、うれしかったです。ぜんぶおいしかったけど、むすめはたまごスープがいちばんのおきにいりでした。

かようびのにはんごクラスで、しゅうじをたいけんしました。はじめは、かんたんだとおもっていたけど、かいてみたらとってもむずかしかったです。かんじて「お正月」と「犬」と「愛」というじをかきました。みんなにおしえてもらって、じょうずにかけました。また、やってみたいです。

(注：ネチさんには昨年12月に発足したKIFA ボルトガル語教室の講師をお願いしています)



日本語教室の川崎直子さん(右)と
富岡恒子さん(左)

KIFA日本語教室「日本語しゃべろう会」の案内

★火曜日クラス：毎週火曜日、10:30 - 12:00

蟹江児童館(蟹江中学校の西隣り)

連絡先(担当)：川崎直子、TEL/0567-96-3394

★土曜日クラス：毎週土曜日、19:30 - 21:00

中央公民館

連絡先(担当)：八神里美、TEL/0567-95-0307

お知り合いの外国人の方達に上記教室があることを教えてあげてください(もちろん無料です!!)。

これらの教室では日本語講師のボランティアも募集しています。関心のある方、

上記の役員までご連絡下さい。

☆ 平成17年度の主な活動

- ・春 「尾張温泉通り」のお花見を体験
- ・秋 「神明社まつり」の見学と笛の体験
- ・冬 「書初め」で、習字の体験
- ・ 朗読の時間（毎月第3土曜日）

☆ 生徒の国・参加数

ベトナム、中国、タイ、ブラジル、ペルー、その他、総数40名
今年、何人かの生徒が「日本語検定」の試験を受検し合格しました。



「日本語しゃべろう会」土曜日クラス一同

☆ ボランティア紹介
(登録数12名)

ボランティアのメンバーの方に、1) ボランティアとして、外国人に接して感動したこと・悩んだこと、2) 今後の抱負・希望、について書いていただきました。

坂岡 なな美

- 1) 外国人は日本語を勉強することにとっても積極的だと思いました。私のあまりうまくない説明も真剣に聞いてくれるので嬉しいです。
- 2) 6月からシリアの大学で日本語教師をします。ボランティアでの経験を生かしてシリアの学生と共に学んでいきたい。

※ 彼女は平成17年12月に行われた青年海外協力隊の試験に合格し、シリアに派遣されることになりました。とても「がんばりやさん」です。活躍を期待します。



ある土曜日のクラス風景

住田 悦雄

- 1) 一日の仕事を終えて日本語教室に通うには、大変な意欲と根性が要るでしょう。言葉の壁が低くなり、滞在中の生活を楽しく過ごし人生の有意義な一頁を送っていただきたい。彼らの熱心さから活力をもらっています。
- 2) 日本語の学習のみならず、日本の文化、習慣、見方・考え方なども知っていただき、国際交流の一助となるよう努めたいと思っています。

大下 和男

- 1) 悩みを話してくれたり、「今日は楽しかった」と言って笑顔で帰る時。文法的な事や、日常用語の説明が難しいこと。
- 2) 生徒によるスピーチ大会(?)。勉強の成果発表と地域の人の外国人理解に役立たせる。

岡 春代

- 1) 彼らの「明るさ」「一生懸命さ」「謙虚さ」に触れ、私もやさしくなれます。先日も「日本語検定3級、合格しました。」と報告を受けました。何でもない言葉に「それ、なんですか?」と問われて、すぐに答えられない国語力のなさに不安で

すが、その時は先輩に聞いたり、もちかえりして次週に答えています。

- 2) 「老害」にならないように、「自分のやることをしっかりやろう!」と思います。

岡 寛子

- 1) 感動したことは、帰国した生徒さんが自分の国で「日本語を活かして、仕事をしている」と聞いたこと。悩むことは文法。テキストを見ながら私もいっしょに勉強しています。
- 2) 今後の抱負は、「わかりやすく」教えられるよう楽しく勉強できたらいいなと思います。

伊藤 恵津子

- 1) 「文字」が読めて、「買い物楽しい」と言われとても嬉しかった。母国語以外に話せない方への「言葉の意味」の説明に悩む時もあります。
- 2) 「美しい日本語」を教えられるようにして「楽しい授業」にしたいと思います。

八神 里美

- 1) 「不幸」な出来事からみごとに立ち直り、今では「とても幸せに生活している」と連絡してくれた人のことが忘れられません!
- 2) 地域に住んでおられる「外国人」との「共存」を切に望みます。そのための私に出来ることは「こんにちは!」の声かけであり、一緒に「勉強する」ということでしょうか?!

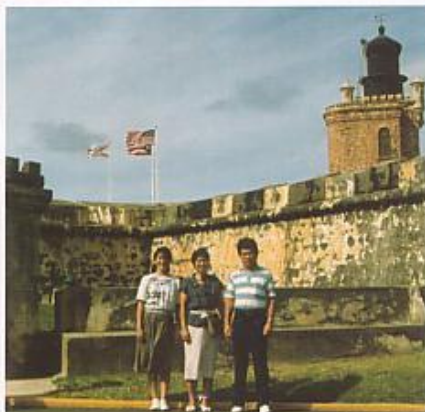
なお、ニュースの原稿の締め切りの関係で、紹介できなかった方を紹介します。

武藤葉子さん、高阪美帆さん、黒川ちづ子さん、服部恵理子さん、木下さん(朗読の会)

黒川邦子

1987年、夫の次の駐在先が決まった。行き先はプエルト・リコの首都サン・ファンだった。次の2年間どの学校に在籍するかで子ども達は悩んだ。当時高校2年の長女は1人日本の帰国子女の為の国際部の高校に編入することに、中学3年の次女はプエルト・リコのインターナショナル・ハイスクールに入学することを選んだ。

プエルト・リコはカリブ海にある小さな島で、およそ四国の半分くらいの面積だ。米国の自治領でありながら公用語はスペイン語で（100年前まではスペイン領だった）前年までパナマに家族で駐在していた私達には少し気が楽であった。パナマも公用語がスペイン語だった為なじみがあったからだろうか。



モロの城壁前にて



会社の日本人同僚と共に

この島全体がアメリカのリゾート地で、山、川、湖、ビーチ、ゴルフ場があり、とても美しい所である。海は透明感がありカリブ海側が水色っぽく、大西洋側は青色っぽく感じられた。その他、鍾乳洞、温泉もありで変化に富んだ島であった。鍾乳洞はサン・ファンから車で西に2時間位の所にあり、中は結構大きく、真っ暗な洞窟の奥へ15分ほど歩くとパッと視界が広がった。その時見た川の素晴らしい碧さとおびただしいコウモリの排泄物の臭いはあまりにも印象的で今でも鮮明に憶えている。また温泉は、サン・ファンより車で南に1時間半程の山の中にあり、湯は無色無臭透明で丁度心地良い温度であった。湯舟は10畳ほどの大きさで周囲がコンクリート張り、水着を着て入った。日本の温泉とは随分違っていた。

サン・ファンには、月に3~4人の日本からの

出張者があった。日本食レストランが無い為、我が家でもてなすことが度々あった。メニューに悩んでいたら、夫の「普段お前が作っている物でいいんだよ。」という言葉で肩の荷が下りた。海老、いか、鮪、鯖やいろいろな野菜も日本と変わらないものが手に入った。日本の調味料は送ってあったので家庭的な日本料理をふるまうことができた。

又ここでは、20世紀最大のハリケーン、ギルバートに遭遇した。1988年9月14日、78mの最大風速でプエルト・リコそしてジャマイカへと進んだこの

ハリケーンは、各地に甚大な被害をもたらした。一晩中風が吹き荒れ、ビューと聞こえる度に15階建のアパートが揺れ、ベランダのガラス扉が吹き飛んでしまうのではないかと思えるほどたわんだ。その隙間から雨、風が容赦なく室内に入ってきた。日本の台風を何度も経験している私達も本当に恐い思いをした。

翌朝外を見てビックリ！電柱は倒れ街路樹も根こそぎ倒れ、電線はズタズタになっていた。停電と断水が1週間くらい続いた。アパートの屋上に貯水タンクがあったので最初の3日間は何とかしのぐことができた。飲み水はミネラルウォーターを使い日本から持って行ったカセットコンロがかなり役に立った。テレビも新聞もない夜になると真っ暗な1週間で過した。しかし、そんなに不安を感じなかったのは、怪我もせず、大した被害も



現地代理店社長夫妻と

なく、元気でいたからなのだろうか。ろうそくの明かりを灯し家族でラーメンだけを食べて静かな時を過したのも、又、良い思い出となっている。

機会があったら二人の娘家族（今ではそれぞれ結婚し、子供もいる）と一緒にこのカリブ海に浮かぶ美しい島をもう一度訪れたいと思っている。

私と姉(“おばさん2人組”)は、7月中旬から約1ヶ月間の東カナダの旅に出かけた。最初の4日間のみ宿を予約し、後は地球の歩き方を頼りに現地でということにした。結果的には、トロント～ナイアガラ～モントリオール～プリンス・エドワード島～ケベック～ロレンシャン～モントリオール～ニュー・ヨーク～トロントという行程になった。「赤毛のアン」のプリンス・エドワード島へ行くことは昔からの夢であった。

モントリオールから夜行バスで13時間(飛行機で2時間のところである。)窓から移り行く景色を眺めたり、いろいろな国の人々の習慣を観察したりと、長距離バスの旅も結構楽しい。

朝、シャーロットタウンに着き町営の乗り合いタクシーでキャベンデッシュへ。いよいよアンの世界だ。ここに1週間ほど滞在した。幸いにも宿は「赤毛のアン」に出てくる、リンドおばさんの家のモデルになった所であった。今にもリンドおばさんやマリラとアンが連れ立って現れるような錯覚に陥った。毎日、グリーン・ゲイブルスや恋人の小径、お化けの森、モンゴメリの生家等をアンの世界を味わいながらゆっくり歩き回った。

それから、アンの言う「世界で一番美しいところ」をもっと知りたくて、グリーン・ゲイブルス博物館(銀の森屋敷)までサイクリングすることにした。どこまでも続くジャガイモの白い花畑や、ハマナスの美しく咲く入江を左右に見て、島の景色を楽しんだ。途中道に迷ったりロブスターを堪能したりしていて、目的地には午後5時頃に着いた。帰りは日没(午後9時)になりそう

でフルスピードで帰ってきた。

プリンス・エドワード島からケベック



拡大図



に戻った。早朝午前3時頃ケベックのバス停に着いて困っていたら、夜明けまでV I A鉄道の駅員さんが駅の中に誘導して休ませてくれた。同じバスの乗客のモントリオールから来た人が「ケベックではいきなり英語を使わず『私たちは日本から来てフランス語が分からないから』と前置きしてから英語を使った方がいいよ。」と教えてくれた。ケベックではフランス語が公用語で標識も看板もすべてフランス語なのだ。英語をいきなり使うと歴史的な経緯から、あまり良く思われならしい。そう言えば、V I A鉄道の親切な駅員さんもほとんど英語がしゃべれなかった。夜が明けて街のほうへ降りていくと、まるで絵本に出てくる中世のヨーロッパのように美しい街であった。ちょうど「ヌーヴェル・フランス祭り」が開催されていた。城壁と貴族や町娘に仮想した人々、大道芸人、馬車の蹄の音でタイムスリップしたかのようにであった。あまりにも祭りに夢中になっていて、ロレンシャンのモン・トランブラン行きのバスに乗り遅れ、サン・ジュビットで夜中に必死でタクシーを探すはめに陥った。

ロレンシャンはメープル街道で有名なところだ。紅葉にはまだ早かったけれど、モントリオールから来た人とその友達のドイツ人と4人で8kmもカヌーを漕いで楽しんだ。9月中旬には周りはずべて黄金色で美しいだろう。またその頃来たらいいなと思った。

カナダとアメリカを3回も出入りする旅であったが、どこでも親切で人なつこい人々と接することができた楽しい旅であった。

カナダとアメリカを3回も出入りする旅であったが、どこでも親切で人なつこい人々と接することができた楽しい旅であった。

オーハイム夫妻の蟹江再訪

櫛田君代

オーハイム夫妻と私達家族との付き合いはもう9年にもなる。奥さんのエルケがKIFAの招きに応じてドイツからの訪問団の一員として1997年に蟹江に来て、私の家にホームステイして以来ずっと親しく付き合っている。毎年クリスマスカードに「今年は来られる?」と、お互いに書いたりする。

私は娘や妹と、ハンブルグの近くのリューベックという中世のおとぎ話に出てくるような美しい町の郊外に住むオーハイム家を二度訪ねた。

また、3年前にはオーハイム夫妻とイングランドやウエールズ地方を一緒に車で旅行したりした。エルケと私は偶然にも生年月日がたった16日違うだけなので、敗戦国の惨憺たる戦後の思い出なども語り合い、すっかり意気投合して、まるで同窓の友か長年の親友のように懐かしい感じがする。

エルケの夫のクリスチャンは定年になったら、ぜひ日本へ来たいと言っていたのだが、ついにその日がやってきた。昨年10月25日にハンブルグを出発して、私の娘が住む韓国のソウルに寄り、釜山から福岡へフェリーで渡り、九州、京都、長野を旅行した後、11月7日にわが家に来ることになった。彼らはグループツアーより、失敗してもいいから自分達で行動して、アドベンチャラスな旅を楽しみたいという個性の強い人達なので、いったいどこまで事前に計画を立て、アドバイスをしたらよいか迷った。九州に渡って以来しばらく連絡が全く無かったので、大丈夫なのかと心配していると、レンタカーで鹿児島までドライブし、海水浴をして楽しかった、というメールには驚いた。10月末だというのに24度も気温があったので、ドイツの北部では夏の気温だったのだろう。

11月7日蟹江にたどり着いた彼らを何処へ連れて行くか、何に興味があるのかと気がもめた。その日は疲れているにもかかわらず、久しぶりに会えた喜びで、夜遅くまで話し込んでしまった。

次の日、KIFAの有志の人達が二人の歓迎会を

タイ料理店「ラ・ヴァンダ」で開いてくださった。エルケは会員の皆様との8年ぶりの再会を喜んで話に花が咲いた。クリスチャンはエンジニアなので会長の藤田さんというすばらしい話し相手を得て、大喜びで延々と話が續いた。私達は「ドクターとマイスターのレクチャーはいつまで続くのかしらね」と言ったりした。おいしいタイ料理や日本酒をいただき、とても楽しい会だった。

彼らは、観光地やお城よりもホームセンターにぜひ行ってみたいということだった。蟹江の

エンチャーへ連れて行くと、ドイツにもある道具類には関心を示さず、日本独特の鋸や、箸や、包丁や、耐震装置などに興味を示した。説明をする喜んで、約半日ほどそこで過ごした。またクリスチャンは、私の家のリビングのドアがガタガタと軋みがちなを知って、ありあわせの道具や螺子を古い道具箱から捜し出し、あっという間に、指一本でも開けたてが出来るくらいに完璧に修理してくれた。ついでに、門や風呂場のドアなどにも手を入れてくれた。お礼を言うと「電話してくれればいつでも道具箱提げてくるからね。これは僕の趣味だから」と言う。もう少し近ければ、直してもらいたい箇所がいくつかあるのだけれど、ドイツからではちょっと遠すぎるのが残念だ。

エルケは八神さんに行った「なばなの里」の露天風呂をととても喜んだ。「樹や花を見ながら温泉と日光浴が同時に楽しめるとは、なんてすばらしいんでしょう!」としきりに感激して、帰ってきてからも「写真を撮ってきて友達に見せたかったなー」などと真剣に言うので「温泉で写真を撮るのはちょっと無理よね」と私は笑った。

ガイドに従って観光地を効率よく見て廻るのではなく、彼ら独自の視点から日本を見て廻る旅は結構楽しかったようで、11月12日まで我が家に滞在した後、15日に大阪港からフェリーで上海へ向かい、ハノイを経てハンブルグに11月23日に無事帰ったというメールが来た。



「ラ・ヴァンダ」にて



八神、櫛田、Oheim夫妻

楽しかったクリスマス会

— 音楽は世界を結ぶ —

クリスマス会担当 黒川邦子、太田幸子

恒例のクリスマス会が例年より少し早く12月4日に蟹江町の源オココミュニティーで行われました。当日はあいにくの雨で集まりが心配されましたが、終わってみれば総勢133名の参加者で会場は思いがけず超満員でした。そのうち近隣在住の外国人が40名、外国人の子どもが10名、日本の子どもが19名でブラジル、中国、タイ、フィリピン、ミャンマー、南アフリカ他多くの国の方々が来て下さいました。



始めに日本の伝統行事の餅つきをしました。外国人や日本人の大人や子どもが何人も並んで挑戦しました。つきたての熱くてやわらかいお餅を大根おろし、きな粉、しょうが、餡子などで味わいました。一品持ち寄りのパーティなのでテーブル

にはいろいろな国の珍しい料理がカラフルに所狭しと並び、色とりどりの花が咲いたようでした。味もなかなかのものばかりでした。

今回はジャズバンド「リバーサイドストーンパーズ」のクリスマス曲の生演奏があり、バンドマスターの名司会で華やかに大いに盛り上がりました。ダンス曲の時には3分の2以上の人が部屋の中央に集まり、まるで盆踊りのように二重、三重の輪になって大人も子どももリズムに乗って踊ったのです。その時、音楽は世

界を結ぶことができる素晴らしいものであることを改めて感じました。言葉が充分に通じなくても全身で音楽を感じ、体が自然にリズムを刻み踊り



爆笑のドジョウ
すくい踊り

だしたくなるのは愛知万博で感じたものと同じものでした。

サンタさんの登場で小さな子ども達は全員お菓子の袋をもらいました。写真を撮る親子もいて町長サンタさんはゆっくりする暇もなかったようです。サンタさんありがとうございました。飛び入りの



ダンスタイム

どじょうすくい踊りに外国人も駆り出され、ユーモラスな仕草に会場内が笑い声で包まれました。どじょうすくいは世界に通用するお笑いだったのです。ガールスカウトの子ども達による椅子とりゲームでは大人も子供も一緒になって大はしゃぎでした。全員で写した記念写真は後で年賀ハガキとして参加者に送られました。最後のビンゴゲームでは全員が



賞品を手にする事ができました。また、yoshiの会の服部美恵子さんからルイジアナのハリケーンによる邦人被害に対するカンパの呼びかけもありました。

最後に世界が一步ずつ平和に向かっていくことを願って楽しいクリスマス会を終えました。

「リバーサイドストーンパーズ」の熱演

KIFAによるミャンマー小学校への支援活動

— ミャンマー訪問の報告 —

磯部正弘

この度、かにえ国際交流友の会からミャンマーの恵まれない学校の子どもたちのために何か役に立ててほしいという御依頼により、1000USドルをお預かりさせていただきました。これまでも何度かミャンマーのシャン州にあります小学校に、図書館や大きな水瓶、トイレを作られるなど国際交流をされますお手伝いをさせていただきましたが、今回は別の小学校でということになりました。

2月2日より10日まで現地を訪れましたおり、色々な方にお話を伺い、今回は今までの小学校の近くではありますが、別の小学校に寄付させていただきましたことにいたしました。その小学校はシャン州ピンディアにありますティヤコーン村の小学校で、生徒数は230人。建物は国際連合により建てられていましたが（国際連合というのは現地の通訳による言葉で、ユニセフかもしれません）、子ども達の机や椅子が十分ではありませんでした。

また、細長い大きな建物の中は二つに仕切られているだけで、年の違う多くの子ども達が内容の違う授業を同じ部屋の中で受けていました。そ

で各クラスごとに間仕切りをしてほしいとのことでした。また、生徒数の割にトイレも不足していました。そこで、勉強するために不足している机や椅子、クラスを分ける間仕切り、先生のための机や椅子、そしてトイレを寄付させていただくことにしました。

この小学校には電気は通じておりません。私が訪れました時は乾季でしたので、雨はほとんど降りません。従って青空が一日中広がっていますが、雨季になれば曇り空の多い日々が続くことでしょう。

乾季の時でさへ薄暗い教室で子ども達は学んでいます。またこの地域は簡単な井戸を掘っても水は地層の関係で出ないそうです。年中雨水を溜めて使

ているとのこと。次回からの国際交流の活動の参考になればと思いますが、簡単ではないかもしれません。

最後にこの村の名前ティヤコーンとはマンゴーの丘（マンゴーがたくさんある丘）の意味だそうです。また校長先生はキン・ミンウさんというお名前です。



援助金を贈呈



すごい紙幣の量！！



校舎外景

上記のミャンマーの小学校



校舎の内部



前回、別の小学校でKIFAの援助で作られた水タンク（側面にKIFAの銘が入っています：下）



国際交流関連講演会「インドの子ども達に教育を！」報告

青木猛



平成18年2月19日(日)に毎年恒例となっている国際交流関連講演会を実施しました。今回は「インドの子どもたちに教育を」ということで東海市・西方寺寺庭婦人で、FICO (Friends International Club's Organization) 会長の深谷雅子さんをお迎えし、その活動の一端のご紹介と、特にインドの子ども達の教育支援についてご講演いただきました。深谷さんは長年の功

績が認められ2002年には愛知県国際交流協会から表彰され2004年にはインドの「デリー・テルグ・アカデミー」から日本人で初めて「国際賞」を受賞されました。

インド南部にあるダックタイ村の小学校が廃校になることをきっかけにNGO「FICO」を立ち上げ、小学校の再建、中学校建設・増築、電動式井戸、浄水施設の整備等をされてこられ、平成8年からは小・中学校が州に移管された後も毎年、奨学金を贈られ支援をされているほか、平成11年からは日本とインドの小中学生にお互いの国を知ってもらおうと相互のホームステイを行って見えます。

講演会の後半は、インド料理の試食会とインド衣装「サリー」の試着会が催され、皆さんすっかりインドびいきになってしまいました。また、当日は地元のCATV「クローバーテレビ」局の取材を受け、その様子が2月下旬から3月上旬の「タウン・トピックス」の中で放映されました。



2005年4月就任の新役員の紹介

山口令布子

私が「かにえ国際交流友の会」に入会したのは10年近く前、ドイツのハンブルグからホームステイ訪問団がやって来た年でした。今までは楽しい行事だけの参加でしたが、これからは行事の裏方としてお役に立ちたいと思っています。よろしくをお願いします。

日本語教室担当 川崎直子

KIFAの日本語教室で支援活動を始めて、かれこれ6年目になります。2004年に火曜日クラスの代表を引き継いで、昨年夏に「KIFA子ども日本語の会」を立ち上げました。「異文化」ではなく、「多文化共生社会」の第一歩が日本語教室であり、またKIFAの活動であると思っています。できるときに、できることをというスタンスで支援していきたいと思います。日本語ボランティアをしてみたいという方、お気軽にご連絡ください。

(4ページの日本語教室火曜日クラスも参照)

櫻井初美

2年前ルイジアナからの留学生のホームステイ受け入れをきっかけにKIFAの行事に参加させていただくようになりました。まだ運営の事もよく理解しないまま役員に指名されて、役に立てるかどうかわかりませんがよろしくをお願いします。

富岡恒子

カメラ大好き人間。「1・2・1・2・・・」は撮る時の合い言葉。いつも笑っている顔になる。すごい数の写真、アルバムの整理は大変。しかし、今はデジカメのお陰で、パソコンで大きな画面で見られることもできる。近頃見づらくなってきた私には助かる。これからも皆さんと一緒に写真を撮りたい。今、「KIFA子ども日本語の会」のボランティア講師を担当させていただいている。未来に羽ばたく子どもへ、地道な活動から、自分のパーソナリティを高めていけたらと思う。

(4ページの日本語教室火曜日クラスも参照)

世界の国旗シリーズ：インド



1947年に制定された国旗。中央の印はチャクラ（法の輪）を示し、上のサフラン色は勇気と犠牲、白は真理と平和、緑は公正と騎士道を表している。

KIFAイベントボランティア募集

右記の各行事、イベント等でお手伝いして頂ける方を募ります。各役員の方まで声をかけて頂ければ幸いです。よろしくお願ひします。

2006年度の年間行事（確定分）

日時	行事
2006年4月16日	総会、懇親パーティー
6月11日	親善ボウリング大会
8月13日	蟹江夏まつり参加
10月8日	蟹江秋まつり参加
12月10日	クリスマス会
2007年2月18日	国際交流関連講演会
3月末	会報（No.14）発行

KIFA主催通年教室（講座）：
日本語教室（外国人向け）、英会話教室
ポルトガル語教室

災害義援金

KIFAでは「町民夏祭り」の出店の利益金から、(1)「パキスタン地震」義援金として¥100,000、(2)「カトリーナ洪水被災」義援金として¥30,000を、1.については11月に中日新聞、2.については12月にJLFFを経由して送りました。

ご協力ありがとうございました。引き続きご支援をお願いします。

企業会員

(株) アイエス	蟹江住宅設備 (株)	甘強酒造 (株)
(株) 鈴鋼製作所	松屋 (株)	

賛助会員

いとり呉服店	宇佐美自転車商会	(株) 片桐銘木工業	共同建設 (有)
(株) 鋼誠興業	西光寺	(株) 鈴鋼化成	(有) ダイアン
月星歯科クリニック	東海興業 (株)	日光鋳工場 (株)	フミン加工 (株)
松屋呉服店	丸信製粉 (株)	(有) 宮長食品	もへの寿司
山田栄子	KIFA ホームページ http://kifa.web.infoseek.co.jp/		

☆☆ 編集後記 ☆☆

皆様方のご協力のお陰で、原稿集めには以前ほど苦勞しなくなり、今号は3月末に発行できそうです。使用写真に関して、デジタルカメラでの写真はパソコンのモニター上ではよく見えても印刷すると荒いことがあります。掲載写真についてはできるだけ高解像度モードで撮って頂きたいです。編集者からのお願い（注文）でした（ふ）。

発行：かにえ国際交流友の会

会長：藤田美保

TEL: 0567-95-9724 / 052-872-5855

E-mail: fujita@nsc.nagoya-cu.ac.jp

事務局：蟹江町役場総務部企画課内
〒497-8601 蟹江町学戸3丁目1番地
TEL: 0567-95-1111, FAX: 0567-95-9188